

## 令和4年度学習成果測定アンケートアセスメント報告（卒業時・在学生アンケート）

### 1. 学修成果測定アンケート概要

本アンケートは、大学生活での満足度やディプロマポリシーで掲げた身につく能力を測り、教育改善を行うため令和元年度から全学生を対象に実施している。

### 2. 基礎情報（卒業時アンケート）

①実施期間：令和5年3月20日（卒業式当日ガイダンス）

②対象：大学4年生、短大2年生

③総回答率：71.8%

（総回答者数＝294名 内訳：大学234名/保健体育学科23名/児童教育学科37名）

※令和3年度総回答率91.3%

④実施方法：Web回答（Office365 Forms使用）

QRコードを印字した紙を配付し、卒業ガイダンス内に実施した。

※アンケート名称：「大学の学びに関するアンケート」、「短期大学の学びに関するアンケート」

### 3. 基礎情報（在学生アンケート）

①実施期間：令和5年4月5日・6日（フレッシュウィーク期間中）

②対象：大学2年～4年生、短大2年生

③総回答率：73.8%

（総回答者数＝757名 内訳：大学710名/保健体育学科11名/こどもスポーツ教育学科36名）

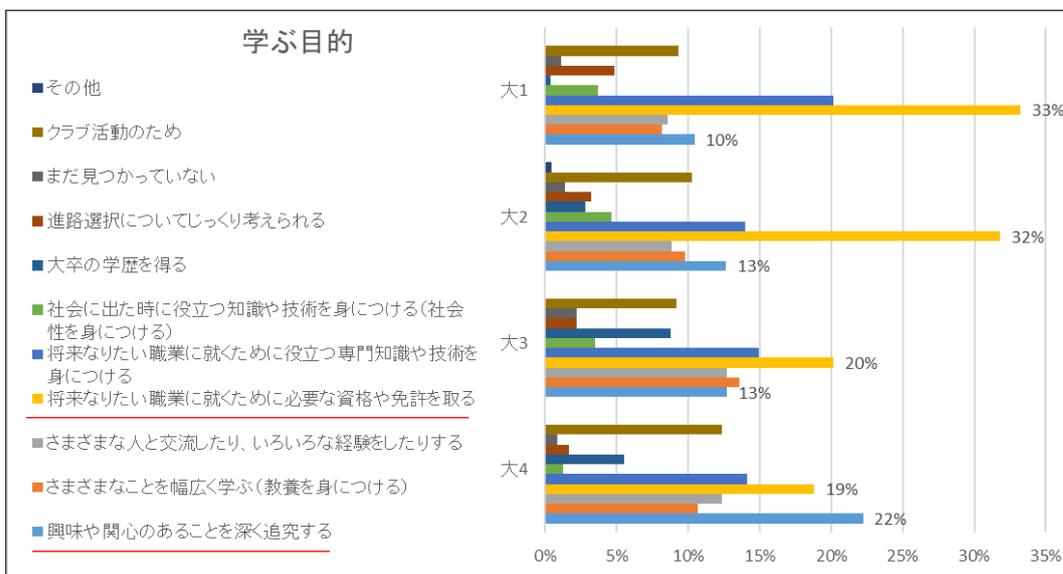
※令和2年度総回答率75%

④実施方法：Web回答（Office365 Forms使用）

### 4. 集計結果（大学）

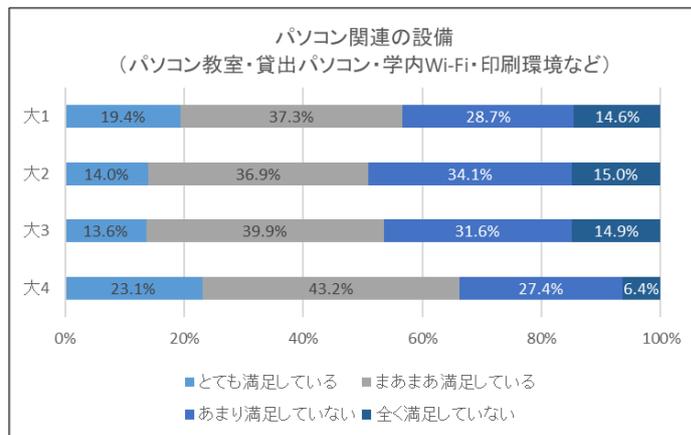
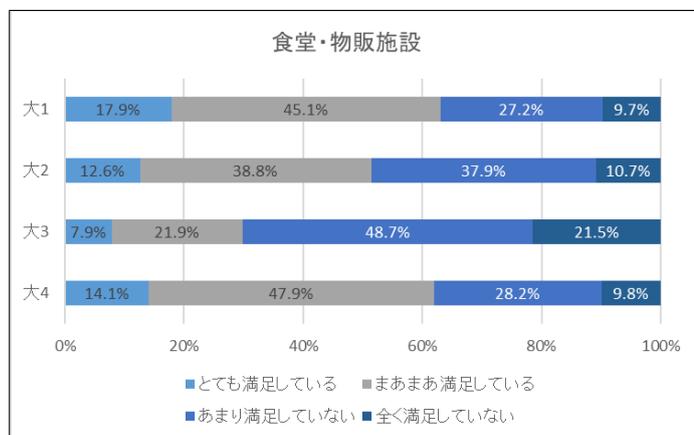
#### 1) 大学で学ぶ目的

学年別でグラフに表した。大学1年次では資格や免許を取ることを目的としている学生が多いが、学年が進むにつれて低下、相対して興味や関心のあることを深く追及する目的が上昇傾向にあり変化している。



## 2) 教育環境の満足度

教育環境の満足度を学年毎に比較した。教育環境の中で満足度の低かった 2 項目を示す。「食堂・物販施設」は、どの学年の層でも満足度が低い傾向にあり、特に大学 3 年生においては不満に感じている学生が約 70%と喫緊の課題であると捉えられる。昨年度学生部より食堂・物販施設の改善策が示されたが、それによる変化など今後の状況を注視していく必要がある。



## 3) DP 毎の成長実感【令和 4 年度卒業学年の学年推移 (大学 2 年次から卒業時)】

《学習成果測定アンケート DP 関連設問》

アンケートでは 1 年間の学びから DP 毎の成長の実感を回答してもらった。

DP1→教養を広く身につけることができましたか。

DP2→体育学の内容を理解し実践できるようになりましたか。

DP3→専門分野に限らず、色々なことに柔軟に対応し、指導することができるようになりましたか。

DP4→自ら課題を設定し、分析や考察ができるようになりましたか。

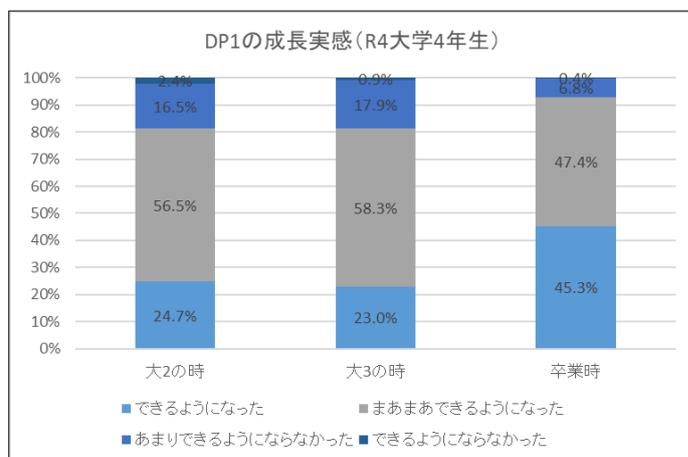
DP5→多様な人々の意見を聴き、理解した上で自分の考えを表現し、的確に伝えることができるようになりましたか。

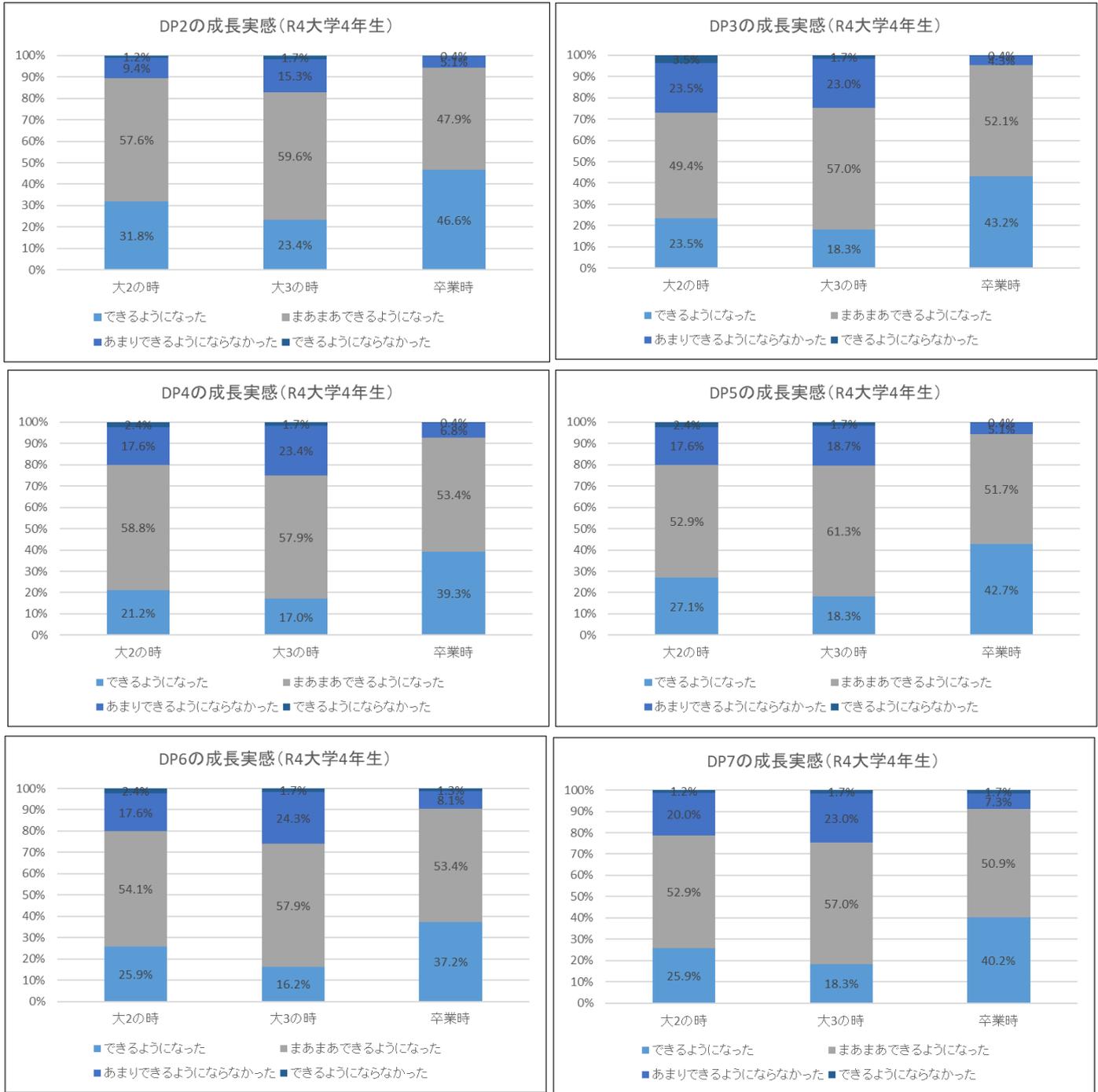
DP6→社会の変化に伴う諸問題を理解し、探究心を持って積極的に解決できるようになったと思いますか。

DP7→体育・スポーツの知識を生かして、社会の発展に貢献できるようになったと思いますか。

令和 4 年度卒業学年におけるアンケートが始まった 2 年次から卒業時までの DP 毎の成長実感の推移を比較した。

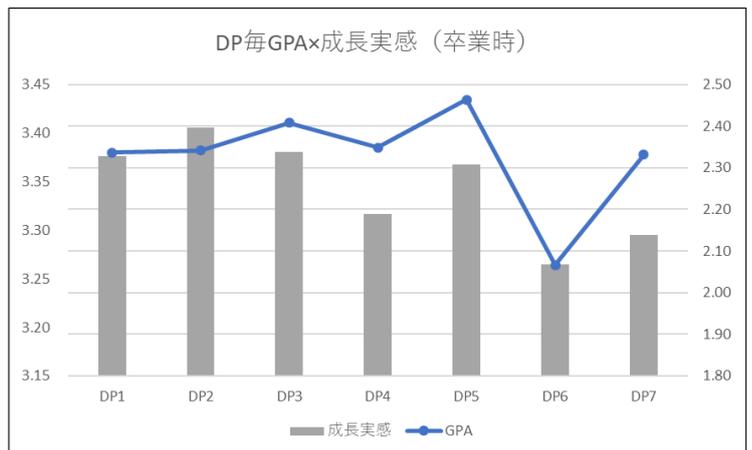
すべての DP において卒業時が「できるようになった」と回答している割合が高い。また、大学 2 年次に比べ大学 3 年次は「できるようになった」と回答している割合が低下することがわかった。これは、大学 3 年次にコース選択やゼミナールなどの専門性が深まり環境が変化したことにも関係していると考えられる。





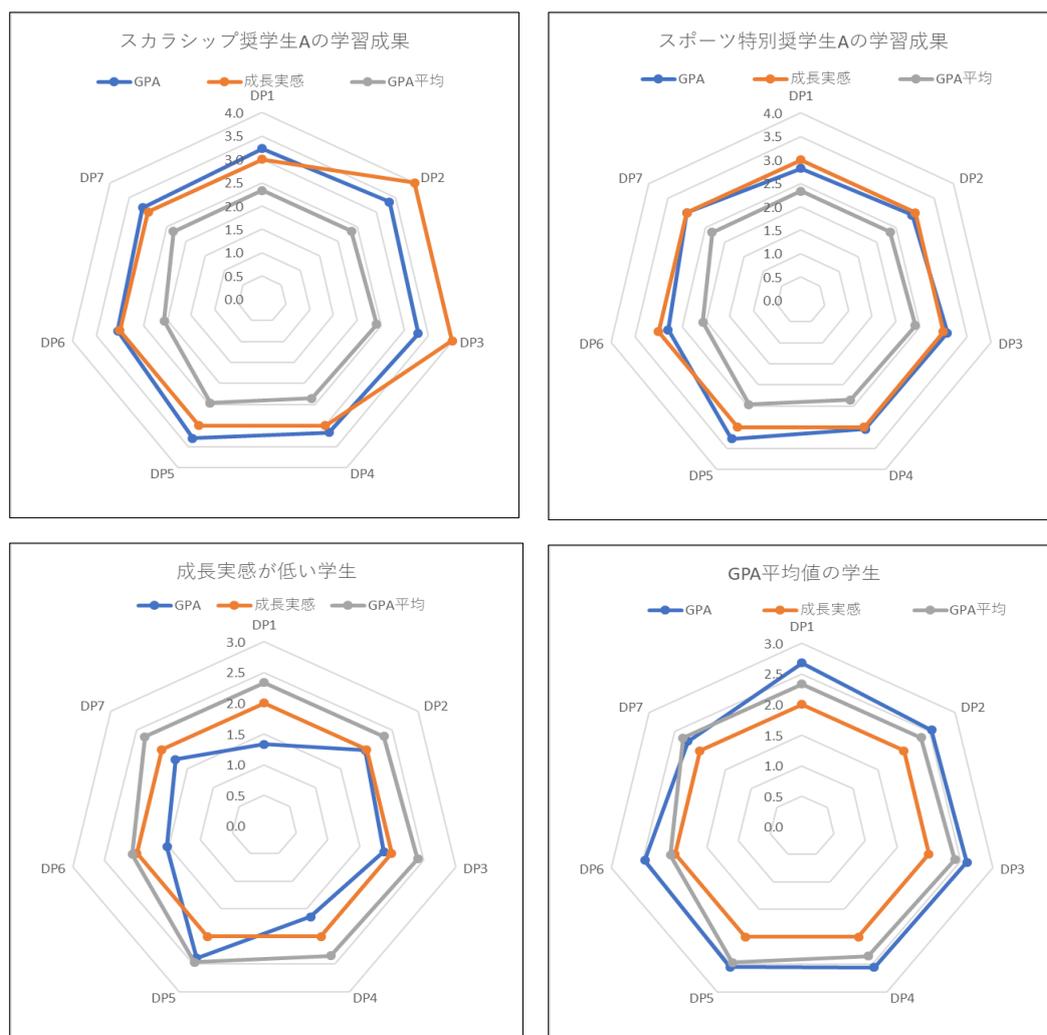
#### 4) DP 毎の GPA 平均と成長実感【令和4年度大学卒業時】

令和4年度卒業学年の成長実感とDP毎のGPA平均をグラフ化した。DP6においては、成長実感が他のDPと比べ低く、GPA平均も低いことがわかり相関性がみられた。DP4とDP7においては成長実感とGPAとのギャップがみられた。これは学習成果の可視化が不十分であることが要因としてあげられる。学生が自分の成長と成績評価を適切に認知できるようにすることが課題となる。



## 5) 個人結果分析【令和4年度大学卒業学年抽出】

令和4年度卒業学年から数名を抽出し、個人のDP毎のGPA、成長実感、学年GPA平均をレーダーチャートで表した。スカラシップ奨学生やスポーツ特別奨学生は、DP毎のGPAもバランスが良く平均値を上回っている。成長実感が低い学生においてはGPAも低い値を示していた。学習成果の可視化に向けて、個人がカリキュラムとDPを紐づけて認識できること、それによりDP毎にどれだけ達成できたかを可視化することが必要となる。このようなレーダーチャートをモデルとして今後LMSを導入した際に検討していきたい。



## 6) 自由記述【令和4年度大学卒業時】

自由記述をワードクラウド分析などで傾向を確認した。

スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさと色で図示している。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表している。

右図は自由記述に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んでいる。出現数が多い単語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で表している。



## 7) 今後に向けて

- ・ 食堂・物販施設の改善については、昨年度の学生部からの改善案を基に継続して取り組みを進め、状況を把握していく。
- ・ 学習成果の可視化を目的として、DP ルーブリック、カリキュラムマトリクス、カリキュラムマップ等をホームページに公開したが、アンケートでは個人毎の学習成果や DP の達成度を見ることができない。LMS 導入までには学生へ DP とカリキュラムの関係性を認知させることが課題であり、LMS 導入とともに身につく能力を可視化して体系的に確認ができるようなシステムを検討する。
  - ➡ 「学習の振り返り」や「DP とカリキュラムの関係」など学生用にパンフレットのようなものを作成しサイネージ掲示や UNIPA などで配信する。
- ・ 自由記述については、検証結果およびデータを関係部署に情報共有し、特徴と良いところは広報に活用し、悪いところについては改善を検討する資料とする。